

# 支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

## 東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

ご当地ソングで歌謡界に新しい風を  
～郷土を愛し、歌を愛して…～

今も歌い続けるレーモンド松屋さん



西条市在住のシンガーソングライター、レーモンド松屋さんは、高校時代にバンド活動を開始。上京し音楽学校で学んだ後、21歳で郷里に戻り音楽以外の仕事に従事しながら、音楽活動を続けていました。

そうした中、平成20年に自主製作CD「安芸灘の風」を発表すると、「有線お問い合せランキング」で史上初となる4カ月連続1位を獲得。そして平成22年7月、ついに59歳でのメジャーデビューを果たし、第43回日本有線大賞で「有線お問い合せ賞」と「新人賞」のダブル受賞に

輝きました。その後、平成24年には五木ひろしさんに提供した「夜明けのブルース」でも、第54回日本レコード大賞「作曲賞」を受賞。松山を舞台にしたこの曲で、松山市の大街道商店街で五木さんとのライブ共演も実現しました。活躍中のレーモンドさんに、ご自身の歌がヒットしている理由や今後の活動などについてお聴きしました。

「長い音楽活動の中で、いろんなジャンルのテイストがうまくミックスされ、私自身のオリジナルとなったサウンドが、今、皆さんに受け入れられているのだと思います。また、郷土をテーマにした曲作りも特徴となっています。今後はこれまでのように地元中心の活動に加えて、日本各地の皆さんにも自分の生の演奏を聴いていただくことができたらうれしい」と、熱く語ってくれたレーモンドさん。

実は、夏彩祭in壬生川で毎年流れている「喜左衛門狸参上」もレーモンドさんの曲です。ご存じでしたか？

## 丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

水面に映える四季の彩り  
～農業を支える志河川ダム～

国道11号を丹原町志川で案内板に従って折れ、松山自動車道の高架下を抜けてカーブを回り込むと、突然、巨大なコンクリートの構造物が姿を現します。志河川ダムです。

古くからしばしば干ばつ被害に遭ってきた道前平野で、志河川の清流を一滴の無駄もなく利用するために整備された志河川ダムは、堤体の高さが48.2メートルもあり、12階建てのビルとほぼ同じです。また、貯めることのできる水の量(有効貯水量)は96万立方メートル、小中学校にある25メートルプールの約3,500杯分にも当たり、年間を通じて農業用水の安定的な供給を図っています。合わせて、地下水のかん養や生態系の保全、そして洪水防止などの役割も担っているのです。

そうした一方で、志河川の流れを静かにたたえたダム湖の水面は、春は山桜やしたたるような新緑、夏は緑が深い山々、秋は錦に彩られた紅葉、そして冬は雪に覆われた三ヶ森の峰と、四季折々に美しい風景を写し出しています。

さらにダムの近くには、恵まれた環境を活かしながら自然とふれあい楽しむことのできる公園が整備されており、桜やモミジの中を散策する遊歩道や休憩所・トイレなどを備えた親水空間となっています。

四国最大級の経営耕地面積を有する西条市の農業の生産性向上と経営安定化に寄与している志河川ダム。国道11号からのアクセスも容易で、気軽に訪れることができます。春の息吹を感じたら、ご家族おそろいで出かけませんか？



身近にある癒しの空間です

## 小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

小松に根付いた丹 美園の精神  
～愛媛近代女子教育の始まり～

小松地区は、近藤篤山先生の教えを受け継いだ「文教の里」と言われますが、愛媛の近代女子教育発祥の地もまた幕末の小松藩でした。それは、安政5(1858)年に小松藩士・丹信積の妻であった美園が、伊予国で最初的女子だけを対象にした私塾を開いたことに始まります。

美園は熊本藩士の息女として文政8(1825)年、江戸愛宕下の熊本藩邸内に生まれます。当時、熊本藩では積極的な教育政策を進めており、実家も代々漢学者の家系であったことから恵まれた教育環境の中で育ちました。兄は佐久間象山の門下生で、同じく江戸勤めで象山に学んでいた信積と親しかったことから、二人は出会い結婚します。

美園34歳の時、夫とともに小松に帰任し自宅に私塾を開

きます。篤山先生の『四如の喩(※)』を理念に掲げ、藩士の女子だけでなく広く町民の女子にも門戸を開きました。当時、藩士の妻が夫の存命中に自身の名で私塾を開いた例はなく、美園の女子教育に懸ける熱意をうかがい知ることが出来ます。この私塾は、明治5(1872)年の学制発布で県内に4校できた女兒校の一つとなり、その3年後、51歳で亡くなるまで美園は教壇に立ち続けます。

美園の女子教育の理念は、明治40(1907)年創立の小松実用女学校、戦後の小松高校家政科へと受け継がれ、愛媛県の近代女子教育の発展に大きく寄与したのです。

※『四如の喩』とは、人との接し方について説いた、今日にも通用する教えです。



美園が私塾を開いた丹屋敷跡に建てられた石碑